

第 332 回金沢眼科集談会 プログラム

日 時 平成 25 年 12 月 15 日 (日) 13 : 00 ~ 16 : 00

会 場 金沢ニューグランドホテル 4 F 金扇の間

〒920-8688 金沢市南町 4-1 電話 : 076-233-1311

連絡先 : 〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 眼科事務室直通

F A X (076)222-9660 眼科事務室直通

ご案内図



- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ **集談会終了後、懇親会 (会費無料) を予定しております。**
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003)として認定されています。
- ・ 一演題質疑応答含めて 13 分を予定しております。
- ・ デジタルプレゼンテーションに限ります。デジタルプレゼンテーション用に液晶プロジェクターを一台用意します。パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者は抄録 (400 字以内) をデータ形式にてご提出下さい。

共催 : 金沢眼科集談会
参天製薬株式会社

— 次回ご案内 —

平成 26 年 4 月 27 日 (日) 金沢大学附属病院宝ホールにて行う予定です。

一般講演

(13:00～13:40) 座長 ^{ふじた}藤田 ^{のぶゆき}信之 先生 (金沢医大)

1. 角膜および水晶体以外の眼組織に起因する乱視の解析
～toric IOL 挿入後の残余乱視の原因を追求する～

^{うちやま か よ}
○内山佳代 (金沢赤十字病院)、加藤直子 (防衛医科大学校)、
酒井誓子 (みなとみらいアイクリニック)

2. 日本人における角膜乱視の10年での変化 -Monzen Eye Study-

^{はつさか な つ こ}
○初坂奈津子、渋谷恵理、三田哲大、岡本綾子、長田ひろみ、柴田奈央子、
高橋依子、佐々木一之、久保江理、佐々木洋(金沢医科大)

3. ヒアレインミニによるアレルギー性接触皮膚炎の一例

^{すけがわとしゆき}
○助川俊之 (加賀市民病院)

(13:40～14:20) 座長 ^{なかむら}中村 ^{ともこ}友子 先生 (富山大)

4. レーシック (LASIK)、最新のコンセプト

^{わかばやしけんじ}
○若林謙二、酒井祐佳、羽沢百合子、篠原由美、田中昌代、川原亜希
(若林眼科)

5. 近視矯正 LASIK 術後眼に対する白内障手術
～眼内レンズ度数計算～

^{たがわこうさく}
○田川考作 (小矢部たがわ眼科)、藤井揚子、東出朋巳、杉山和久 (金沢大)、
浅井宏志 (あさい眼科クリニック)

6. S-1 由来涙道閉塞は特発涙道閉塞と同様の治療方針で治療可能である

- ^{さ さ き つ ぎ ひ さ}佐々木次壽（佐々木眼科）、^{繰 納 勉}繰納勉（NTT 西日本金沢病院）、
宮崎千歌（兵庫県立塚口病院）、^{廣 瀬 美 央}廣瀬美央（兵庫県立尼崎病院）、
杉山和久（金沢大）

(14 : 20~15 : 00) 座長 ^{ま つ だ}松田 ^{の り あ き}憲明 先生（福井大）

7. トラベクレクトミーとエキスプレスの早期合併症比較試験

- ^{す ぎ は ら ゆ か}杉原友佳、瀧原祐史、横田 聡、友松洋子、松村健大、友松 威、高村佳弘、
稲谷 大（福井大）

8. 補償光学眼底カメラによる中心性漿液性網脈絡膜症の黄斑部視細胞の
経時的観察

- ^{な か む ら と も こ}中村友子、上田朋子、追分俊彦、林篤志（富山大）

9. 模擬眼を用いた硝子体内ガスの挙動に関する研究

- ^{や ま だ な り あ き}山田成明、高田祥平、近澤庸平（富山県立中央病院）

特別講演

座長 ^{す ぎ や ま か ず ひ さ}杉山和久（金沢大）

(15 : 00~16 : 00)

「症例から学ぶ、網膜・視神経疾患の診断へのチャート」

三重大大学教授 ^{こ ん ど う}近藤 ^{み ね お}峰生 先生

「症例から学ぶ、網膜・視神経疾患の診断へのチャート」

三重大学教授 近藤 峰生 先生

今のような領域の疾患であれ、実際にその疾患を自分の初診症例として体験して悪戦苦闘することが一番の勉強である。今回の講演は少し趣向を変え、日常診療で眼科医がよく出会う疾患ではないが、少し珍しく、しかし必ず知っておくべき疾患をいくつかピックアップして呈示する。疾患名は最初には出さず、患者の問診から始まり、視力、視野をみて眼底をみて、「どのような疾患を念頭におくべきか?」、「次にどの検査をすべきか?」、「さらにどのようなことを問診しなければいけないか?」、「この病気の最近のトピックスは何か?」を一緒に考える、体験式のセミナーとしたい。さらに、診断後にどのように患者にお話をすべきか、またどのような合併症に注意して、どのような治療を行うべきかについても議論したい。さらに時間があれば、最近の網膜硝子体・視神経疾患の診断や治療におけるトピックスについてもお話ししたい。

略歴

1991年 金沢大学医学部卒業

1997年 名古屋大学大学院修了

1999-2001年 ミシガン大学眼科 留学

2006年 名古屋大学大学院医学系研究科感覚器障害制御学 准教授

2011年 三重大学大学院医学系研究科眼科学 教授